

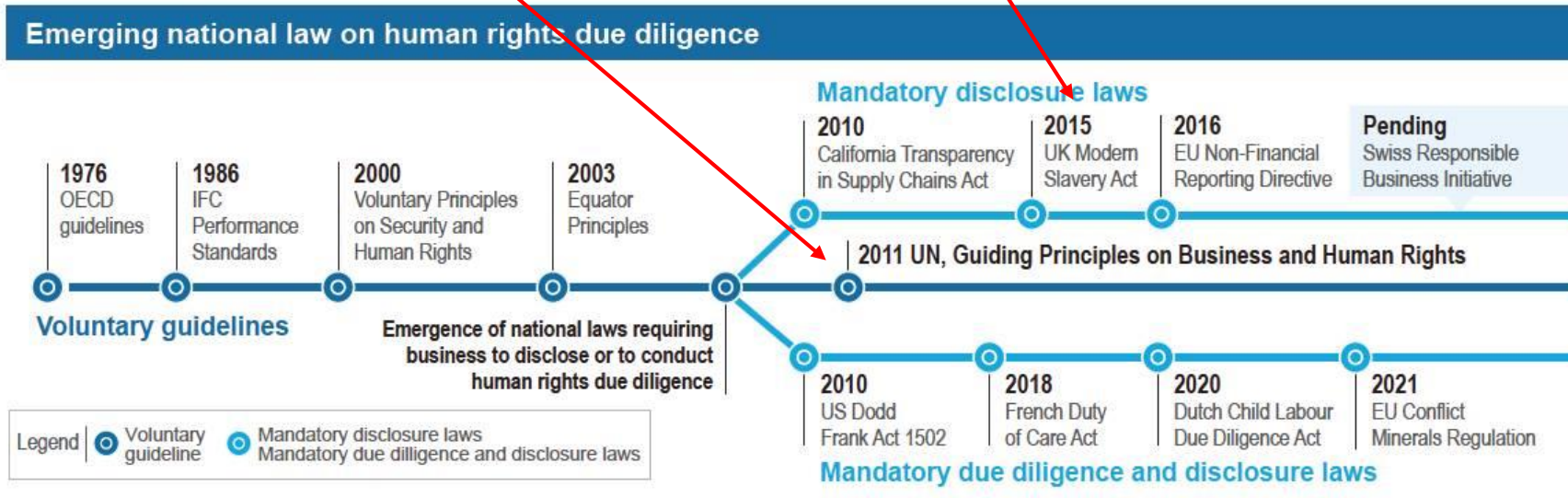
< CRTセミナー >
2017年度の振り返りと
2018年度の活動計画について

2017年11月21日

CRT日本委員会 専務理事兼事務局長
石田 寛

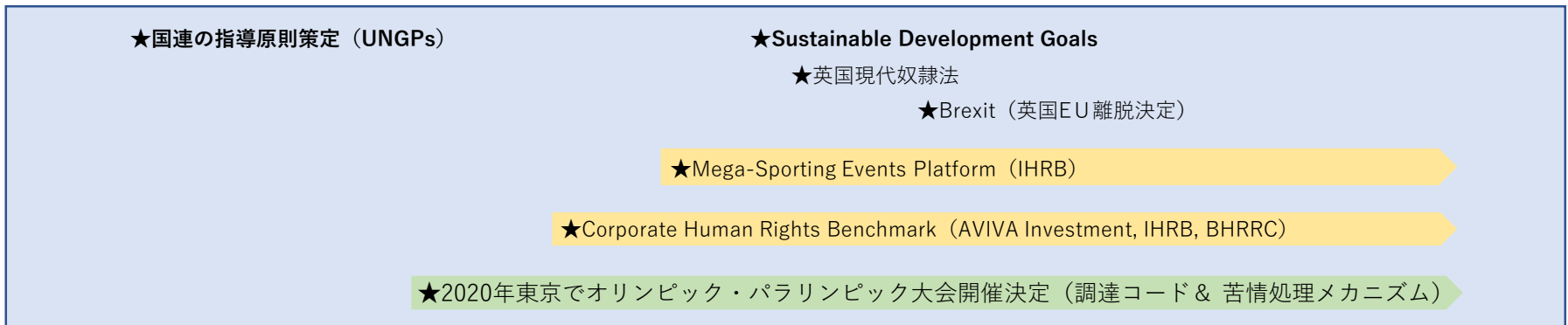
グローバルトレンド（規制強化時代への突入！）

2011年 2012年 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年



グローバルトレンド（規制強化時代に企業が注力すべき課題とは）

2011年 2012年 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年



<注力すべきポイント>

「ビジネスと人権」の主導権を握っているのは英国（女王陛下と政府）
⇒強制力<影響力
Brexit後に、影響力を高めるため、
Commonwealth of nationsに注力している傾向が顕著。



<注力すべき課題>

企業とステークホルダーのエンゲージメント
⇒マルチステークホルダーとエンゲージメントする場づくり

人権デューデリジェンスプロセス
⇒人権インパクトアセスメント
⇒苦情処理メカニズム

日本から世界へ情報発信
⇒毎年9月に国際会議開催。世界で活躍第一人者との対話の場づくり

ビジネスと人権に関する情報開示
⇒AVIVA Investment, VBDOなどのフィナンシャルとNGO団体のグループが積極的にイニシアティブを發揮。
⇒日本でのCHRB普及・浸透を行う。



現代奴隷法は、
企業単独での
対応不可であるためプラットフォームを構築

CHRB: Corporate Human Rights Benchmark
（ビジネスと人権に関するベンチマーク）

2017年度活動実績 及び 2018年度活動計画

プラットフォーム（ダイアログ）

ステークホルダーエンゲージメントプログラム

ベーシック：タイ、ミャンマー、マレーシア、日本

エンゲージメント：マレーシア（パーム油小規模農家）
ミャンマー（先住民）

グローバルステークホルダーエンゲージメント（@東京、9月）

ESG投資による機関投資家とのダイアログ（@ロンドン、7月）

個別企業とグローバル第一人者とのダイアログ（9月）

Sporting Chance Forum（東京オリンピック・パラリンピック大会）

日本（7,9月）

グローバル（11月）

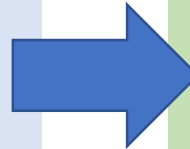
ビジネスと人権に関する国際会議 in 東京（9月）

CSR基礎勉強会

GRI（Certified Training Programme）

人権デューデリジェンス

人権リスクアセスメント



プラットフォーム（ダイアログ）

ステークホルダーエンゲージメントプログラム

ベーシック：タイ、ミャンマー、マレーシア、**インドネシア**、日本

エンゲージメント：マレーシア&インドネシア（パーム油小規模農家）
ミャンマー（先住民）

タイ（食品関連の人身売買）

グローバルステークホルダーエンゲージメント（@東京、9月）

ESG投資による機関投資家とのダイアログ（@ロンドン、7月）

個別企業とグローバル第一人者とのダイアログ（9月）

Sporting Chance Forum（東京オリンピック・パラリンピック大会）

日本（9月）

アジア（5月）

グローバル（11月）

ビジネスと人権に関する国際会議 in 東京（9月）

CSR基礎勉強会

GRI（Certified Training Programme）

人権デューデリジェンス

人権リスクアセスメント簡易版

人権リスクアセスメント

人権インパクトアセスメント

正当性の担保を得るための基盤構築

<NGO> 国連のUNGP (企業: 尊重+救済) 人権デューデリジェンス⇒人権侵害を受けている人の特定し、対処
<政府> 英国現代奴隷法 (企業: 責任あるSC) 情報開示⇒透明性の確保

<企業>

<プラットフォーム>

ステークホルダーエンゲージメントプログラム (SHE)

1. 日本SHE@東京
2. アジアSHE
 - ・タイ・ミャンマーSHE (5/28-6/1)
タイ(ベーシック、人身売買)
ミャンマー(ベーシック、先住民)
 - ・マレーシア、インドネシアSHE (6/11-6/15)
マレーシア(ベーシック、パーム油小規模農家)
インドネシア(ベーシック、パーム油小規模農家)
3. グローバルSHE (9/12) @東京

ESG投資の機関投資家とのダイアログ (7/17-20)
@英国

Sporting Chance Forum

1. アジア地域 (5月、タイ?)
2. 日本 (9/11)
3. グローバル (11月)

<CHRB項目>

経営層のコミットメント

経営層+従業員への
トレーニング

マルチステークホルダー
とのダイアログ

人権デューデリジェンス
インパクトアセスメント

挑戦すべき課題の抽出
KPI設定し、対処する

サプライチェーンの職場
環境&地域住民への配慮

苦情処理メカニズム
(KAIZEN-COM)

成果のレポート
プロセスベースの開示

<フレームワーク>

- 人権方針策定
- 経営意思決定会議の場での合意形成
- e-Learning コンテンツ
- 個別企業グローバル有識者とのダイアログ (9/12or9/13)
- 人権デューデリジェンスプロセス
 - ・ライト版: リスクアセスメント
 - ・スタンダード版: インパクトアセスメント
- インパクトアセスメントで抽出した課題の対処に向けたサポート
- サプライチェーン
 - ・工場レベル: SEDEX
 - ・Rightsholderレベル: Bluenumber
- KAIZEN-COM
 - ・Bluenumber活用 (世界でネットワーク基盤構築)
 - ・問題解決サポート
- 情報開示
 - ・ESG情報開示
 - ・GRIスタンダード開示診断

ビジネスと人権(無形資産)に関する近未来予測

Identify the Rights-holder

- EsG⇒ESG投資家
- Rightsholder-Shareholder
- バリューチェーンにおける顕在化と潜在化リスクマネジメント
- 経営層への人権に関する問題意識の気づき

<課題>

- トレサビリティ
- 苦情処理メカニズム(KAIZE-COM)

不確実⇒確実

対話間接⇒直接

Direct Communication

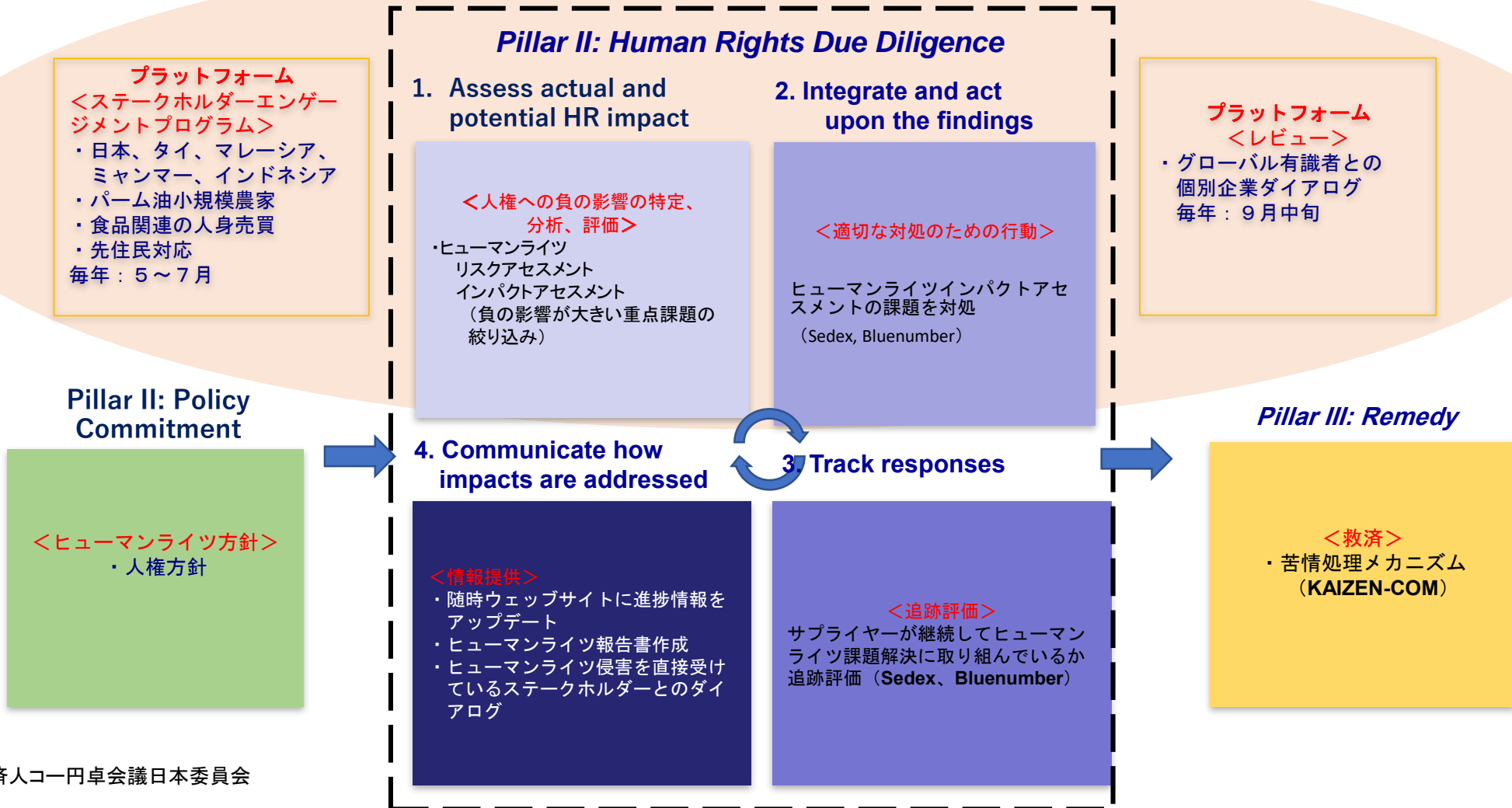
- 無形資産のベンチマーク化
- KAIZEN-COM(情報開示)
- 事業の正当性担保を得るための説明責任
- 経営リスクマネジメント体制
人権インパクトアセスメント

<課題>

- CS0⇒C10(新規ビジネス)
- サイエンス・テクノロジー

個別企業向けフレームワーク&プラットフォーム

国連の「ビジネスとヒューマンライツの指導原則」の観点から見たヒューマンライツデューデリジェンスのプロセス



「ビジネスと人権」 & ESG投資連関図

